

ごあいさつ

一般社団法人 日本小児はり学会
会長 恵美 公二郎

ドイツでは、かなり以前から本会顧問トーマス・ヴェルニッケ先生が中心となってヨーロッパ各地で小児はり治療会や講演会活動を展開されていたようですが、あの忌まわしい東日本大震災の後は、それらの会場で東北被災地の子ども達への募金活動を行って下さいました。そして、ヨーロッパ各地から集まった愛情あふれる義援金を「被災地の子供たちの笑顔を願って」の言葉を添えて本会にご送金賜る様になりました。それに合わせて平成23年第5回小児はり学会学術集会では、遠くドイツからご臨席賜りましたトーマス・ヴェルニッケ顧問から、こちらもはるばる東北からお越し戴いた宮城県鍼灸師会樋口秀吉会長にメッセージを添えて、目録が手渡されたことをご記憶の方は多くいらっしゃるかと思います。

その後も継続してご送金賜り、樋口会長が代表で活躍されている「被災者支援プロジェクトチーム東洋医療」の支援に、また、一部は本会会員が小児はり無料治療実施のため被災地を訪問する交通費補助として利用させていただきました。そうした会員皆様のご健闘ぶりは、会誌報告で掲載した通りです。そして25年9月総会に於きまして、被災地支援事業として、小児はりの啓発も含め、東北地方での小児はり実技講習会開催の提案が決議されました。実際、私も20年前の阪神淡路大震災では、多くの方が被災し、移転したため患者さんは激減しました。そんな中、時間だけは余っていたので、ボランティア活動に来られる業友に感謝し、避難所との連絡をいたしました。しかし、電話では内容が伝わりにくい上、対応された方に被災者からの要望が伝わるまでに幾日もかかります。当時の電話対応の辛い体験から被災地の鍼灸師先生方のご苦勞にも想いを馳せ、3年目を区切りとしたボランティア活動終了という総会提案に至った次第です。

その後、25年10月、日本鍼灸師会学術大会の開催地岡山市におきまして、被災地でのボランティア治療を取り纏めておられる樋口会長、並びに宮城県師会副会長で日本鍼灸師会学術局長稲井一吉先生お二人とお会いし、被災地支援として小児はり実技講演会開催をご提案申し上げました。すると、『翌月に東北6県が集う会議がありますが、その時にどうでしょうか?』とのお誘いを頂くほどの歓迎を受けました。さすがに翌月は想定していませんでしたので日延べして戴きました。その後、話はトントン拍子に進み、今年5月25日、宮城県仙台市におきまして、小児はり学会を代表し田頭誠司理事と二人で、講演並びに実技講習をさせて戴いて参りました。会場の手配等、樋口会長をはじめ皆様にお骨折りを戴いて開催に至る事ができましたが、詳細は、田頭先生による宮城県小児はり実技講演報告をお読み下さい。

会誌紙面をお借りし、会員皆様のご理解と本会顧問トーマス・ヴェルニッケ先生をはじめドイツ日本伝統医学協会の心温まるご支援に今一度、お礼申し上げます。ありがとうございました。